

桃令集



特別  
千6  
4783

五



かゝは書はもあまをそとてき満ちのやする車きまよわははる家もまの道や浦井有國乃まの  
言くはしゆ分はふそとくおのまあもいふ中かおのけいもいふ家も様もたへんら分ん  
はし同く人平も見もふとそ眺や集と名はあらる見ると皆を満せり奇れてまをむきいそは  
らまもえそいおわてけれも道いふもいふあろくまいてあくまはまぬお色をたる地か  
おまもいふおのまを家て老のはらけまもいふ分もいふらにわまはくもいふら

文政七年八月

大筆 隠居

了意



光明院

後伏見帝皇子諱豐仁康曆二六サ四崩聖筭六十  
風雅新拾遺等御作者

天

るくしむらひの  
くろくろのりも

後圓融院

後光嚴帝弟一皇子諱緒仁明德四年四サ八崩聖筭三十六  
新後拾遺新續古今御作者

立

春乃く物原と見せ  
露乃く空をたぐのあ

後崇光院

諱貞成伏見宮榮仁親王御子 後花園院御父康正二八廿九崩十五  
新續古今御作者

陳始志

きく神ふ海に瀧とわが  
このまの御名をいふは  
後

仁和寺兼道法親王

後二条弟五世木寺世平王御子 後小松帝猶子  
新續古今御作者

田家

おのりくは田上  
あはれんすは  
母をうむるは  
道

聖護院滿意准后

後普光園院良基公男三山檢校  
新續古今作者

初冬

秋とく冬とく  
空ふ越兒と月  
のこころと滿意

實相院義運准后

養徳院殿滿詮男法務  
新續古今作者

準後

冬とく冬とく  
空ふ越兒と月  
のこころと滿意

言后

冬とく冬とく  
空ふ越兒と月  
のこころと滿意

義運

近衛殿忠嗣公

撰政兼嗣公男関白左大臣享徳三六廿六薨七十二  
号後普賢寺殿

夕推夫

夕推夫の心は世の業は元  
の心本よりと神やあも紀嗣

一條殿兼良公

関白経嗣公男関白左大臣文明十三四二薨  
八十 新續古今作者

春月

かたし春月と物もたふ  
よりもの心は世の業は元

三條殿實量公

右大臣公冬公男從一位左大臣文明五十九薨  
五十九 新續古今集作者

早苗

いづれも馬にぬをちらまらしてまゝ世の  
長田芝とこを包いしやうらん實量

正親町三條殿實雅公

贈内府公雅公男從一位内大臣應仁元九三薨  
五十九 新續古今作者

春夕月

うきをさうふにりかすうは夕月  
ちりかひるふ新とやいんん 實雅



三條西殿公保公

權中納言實清卿男從一位内大臣長祿四  
正廿八薨六十三 新續古今作者

養

元之ききとれ神心乃神代も  
二葉やわのわあひるらん森

同實隆公

内府公保公男内大臣正二位天文六十三薨  
八十三号逍遥院法名堯空

養

元之ききとれ神心乃神代も  
二葉やわのわあひるらん森

小倉殿實教卿

權中納言公雄卿男權大納言正二位貞和五九七卒  
八十五新後撰集以下作者

月如  
草元  
あきさるゝのつまを此の白くつゝ  
まらぬ寒きまらぬ月を下わつてを

中山殿定親卿

權大納言滿親卿男正二位權大納言長祿三九十七卒  
五十九新續古今作者

芳乃  
結懐  
君心の海を渡る人ぬきはらふ  
あはれつゝふりて世もやまをいん定親

飛鳥井殿雅縁卿

從三位雅家卿男權中納言從二位應永五出家  
法名宋雅 新續古今作者

流月 卷之乃...  
月...  
...  
...

同雅世卿

權中納言雅縁卿男正三位權大納言永享十三出家  
法名祐雅 新續古今撰者

野次鶴  
...  
...  
...  
...





日野殿勝光公

贈内府重政公男充大臣従一位  
文明八十六薨四十八

田家あり

水らしきぬ河の流るは  
さういあふふたのおと田勝光

柳原殿量光卿

大納言資綱卿男權中納言従三位  
永正七八卒六十三

秋

あきのの秋はたふはむは秋は  
あきのの秋はたふはむは秋は







二條家為世卿

御子元大納言為氏卿男正二位大納言元徳元年出家法名明釋  
建武五卒八十九新後撰集撰者續拾遺以下作者

休学

此河之流也  
其下之山也  
此子之うらら  
明釋

同為定卿

元中將為道男正二位權大納言延文五三卒六十八  
續後拾遺新千載等撰者玉葉集以下作者

心あはれ  
神乃なま  
月乃

二條家為冬朝臣

正二位大納言為世卿男充中將四位下建武二  
十二月十二日竹下合戦之時討死

水

水  
つらさをまじへてあふまぬ水  
山をめぐりては  
若

同為親卿

充中將為道朝臣男從二位右中將  
續千載以下作者

親

親  
つらさをまじへてあふまぬ水  
山をめぐりては

若

二條家為忠卿

權中納言為藤卿男正位權中納言應永六年  
六十八卒六十五風雅集以下作者

千鳥

去る路はわが心流るる千鳥  
を乃るあはれもわが心くや  
聖

同為右卿

權中納言為重卿男右中将

正家

禊風若くは申すも春のて

神代とやうにけりしは春のて

花山院家師賢卿

内大臣師信公男正二位權大納言元弘元出家法名素負  
正慶元十廿九於下総国卒三十二續千載以下作者

殊

極く月の影とて海に映る  
何ぞ此閑雪 秋はすまじき  
雪

三條家實任卿

右中将公種朝臣男文章博士建武五十二卒  
七十五新千載以下作者

月  
一、あやとくし、よるありとかり  
あはれつるに、月のかげに  
雪

海住山家清房卿

黄門氏房卿男權大納言從二位  
文安五六廿八卒

山家

中よしひるにわさるる  
にせとあけくほるあはれ清房

世尊寺家行李卿

参議伊忠卿男正二位刑部卿  
享祿二卒五十四

月心

秋も又若母のつる雲丹は  
と一夜の月や光をみん行李

惟宗光吉朝臣

右京権奈續千載以下作者

五月雨

かたの河水ままろりりくまどそそ  
山の音くまきけきれのう

光吉

鴨祐復

鴨祐宜新拾遺集作者

小家

うまをせをいへるはよふ果の音  
たけ袖ぬま月すまふも  
光吉



常徳院殿義尚公

慈照院殿男從二位内大臣贈大政大臣  
長享三三廿六薨二十五

正重

あはれにや尾上のむらり感いさち  
あはれにや尾上のむらり感いさち

瑞泉寺殿基氏卿

等持院尊氏公二男貞治六四廿六卒二十八  
新千載集作者

山霞

あはれにや尾上のむらり感いさち  
あはれにや尾上のむらり感いさち



總見院殿信長公

備後守信秀男從一位右大臣  
天正十六二薨

冬愈

杖人の袖の床乃や殿風も多て  
涙とにゆらうと一託袖 寝

徳源院殿信雄公

右大臣信長公男内大臣正二位祝髮号常真  
寛永七四薨七十二

明雅友  
中も亦かよふ者の裁きも自ら記す事  
迄乃うらなむの山とまてりハ一幸

細川政元朝臣

武蔵守勝元男管領右京大夫  
永正四六廿三卒

杜露

かすまり水と杜露しるは露の  
山西乃しるは露の政元

同成之

讃岐守持常義子兵部少輔従五位下  
永正八九九卒七十八

水月

なる人のうは月さそてつる  
ほろあまのよるあまのよる

今川氏兼

国範男了俊弟任越後守  
新拾遺新後拾遺作者

國破 左 松反 右  
おの松しよとくをさびらるるるし  
いづく下この事おしん風十蓋

同範政朝臣

上総介泰範男民部少輔  
新續古今作者

秋鐘 秋鐘  
秋鐘ありてきつる鐘のよとら  
秋鐘ありてきつる鐘のよとら  
範政

山名 瀬貴

中務権大夫家男從五位中務大輔  
嘉吉元六廿四卒 新續古今作者

新 懐  
神の紀ふひくも見えぬ  
いのりてえみむかひかな  
瀬貴

赤松 滿政

則祐孫滿則男新續古今作者

將 志  
まにまに 香もつら  
まにまに 志もつら  
瀬貴



東野列常縁

氏数男允進大夫下野守法名素傳  
自堯孝法印古今傳授

暮春

花らわらぬ人しるありの  
山路と見しむらさき

蜷川新右衛門親當

藏人貞増男右衛門尉法名智蒔  
文安四五十二年

ら家

あひのうひかぢりあはれ  
とむくのいよのなまむら

杉原伊賀守賢盛

滿盛男法名宗伊善和哥及連哥  
竹林集作者

養春

去しゆくは波しゆくは春  
しゆくはもしゆくは春  
ぬえとともめり賢盛

毛利大膳矣元就

從五位右馬頭贈三位  
元龜二六十四平七十五

情別處

おろしゆくは波しゆくは春  
ぬえとともめり賢盛  
物成衣しゆくは春

小早川中納言隆景

元就三男慶長二六十二卒六十三

有  
殊夕

月冬行とる人しと申し新に  
新しきもの書は家

北條元京奈夫氏康

元京奈夫氏綱男元龜元年十月三日卒  
五十六

小  
動

元京奈夫氏綱男元龜元年十月三日卒  
五十六





妙壽院惺窩

冷泉為純卿男元和五九二五十九卒  
名肅字斂夫号北肉山人柴子廣胖窩

地儀

林磴春深匪雪時胡為学絮滿林枝  
羞明暗犯鶯蒼地懶綠殘紅一夜衰  
藤肅

長舜法印

世稱鼠長舜

延喜帝十二世後裔春宮少進兼氏朝臣男  
天台住侶新後撰集以下九代撰集作者

新冬

草のいとしのおがほり  
あさのたろゆんいゆいさきとと

頰阿法師

小野宮大納言能實源仁卷男應安五  
三十三寂八十四續千載以下作者

老板  
迷懷

かろふまなまのむぢらおいっか  
ひらりじーとれきまふぢら

兼好法師

卜部兼頭之三男仕  
後宇多帝任左兵衛佐觀應元二月十八日寂  
六十八續千載以下作者這和哥家集有題花の雲

ふきらうこまのいね花のいぢまわや  
ちろまゝのちろまゝのちろまゝ

淨辨律師

法印位東山居藤本續千載以下作者

湖月

よもぎらうきくし  
おちのけしうきくし  
あきつるをば  
笑

慶運律師

淨辨男法印位風雅以下作者

浦船

あつちやうきくし  
うきくし  
あつち  
蓬

花室尼

傳不知問夢窓國師和哥

竹見解尼  
 世にいふまにふりて  
 出るに  
 月六に  
 かく

夢窓國師

高峰日國師法嗣諱疎石觀應二九晦寂  
新拾遺新後拾遺等作者答花室尼和哥

夢窓  
 此は  
 夢窓  
 花室尼

信義堂禪師

夢窓法嗣諱周信号空華住南禅慈氏院  
嘉慶二四四寂

太華不高海不深堪無比况此愁心

彫言シモノヲシ一列于金夜欲話ト香ト月ト潭ト

義堂

津絶海禪師

夢窓法嗣諱中津号蕉堅住相国寺勝定院  
應永十二四五寂謚佛智廣照国師

卷六番客

千里佳句一文同花意翻席坐喜風  
以朝卷落少思還出門修緣唯掃落五

絶海

横川和尚

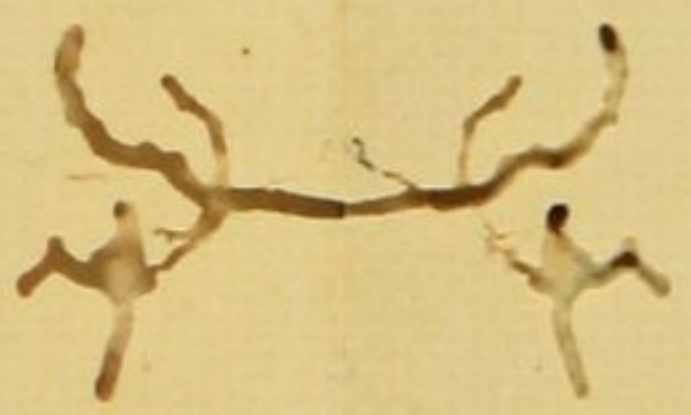
鳳瑞溪法嗣諱景三号小補  
明應二十一廿七寂

節序易色君易達西風吹好酒吾衣碧梧杖老愁人耳

鬢髮半老三葉花

五秋空可人

小補



月舟和尚

諱壽桂号幼雲叟又中孚道人  
天文二十二朔寂

早苗

四月分秧幾戶種  
青出小細於稻酒  
老農先卜豐年  
瑞涼為氣凝午斛  
珠香桂

一休和尚

弘宗禪師法嗣諱宗純  
文明三十一年二月八日

社日

心那... 菴... 純

沅南江

一休和尚法嗣諱宗沅号長允  
又漁菴無名氏

不意是投 頌起雅伯之  
和言一篇梅沙賜如馬平  
不口點止在行苦約其也

一方殊藥 雖獻 君効語中不末う分  
愧我病身三折術 於候渾存 泥望同  
南江









弄花軒肖栢

牡丹花又号夢菴自宗祇古今傳授

賦河句

祿わのるるのささるる玉のき  
あきささるるのささるる河句牡丹

中務少輔基佐

正六位上左衛門尉出家法名永仙  
叙法橋自常光院兼珍古今傳授

秋夜

晴暉

老奴似此の如き一の空見ると  
身を秋の空に明くはるる

耕閑斎兼載

猪苗代氏叙法橋位号相園坊

閑耕云

きくえんくうたうんし  
あふりかろ  
其の字も式定福載

待月菴宗長

号柴屋軒享徳五三六没

惜月

さあわく銀作  
ち上月  
山乃社所  
其

春鴻齋能阿

称能阿弥仕公方家為同朋

守花

作紙

とまゝに記しめたる  
神のまゝとまゝけり  
志の多きを  
真結

松雪齋相阿

称相阿弥能阿弥孫仕東山巖為同朋

残雪

山に人と成す神路の  
あはれりや  
雪にけり  
まゝのまゝ  
あはれり

稱名寺珠光

本朝茶道始祖  
文明年間壽八十歲没

竹葉風

海山の風をなす竹葉の心  
まじりて風乃成る竹葉の心  
珠光

學叟藝阿

稱藝阿能阿弥之子相阿弥之父  
仕東山殿爲同朋

山露月

梅子香をなす山露の心  
清利なる露の心  
後阿能阿弥の心  
藝阿





文政八年乙酉正月

皇都書林弘所

双鉤 高橋政朝  
彫工 井蛙堂

室町中立賣

橘仙堂

寺町六角

松月堂

